

# MTEXによるチタンの解析手順

極点図と逆極点図表示がポーラネット表示でない為  
従来データと比較が難しい。  
方位位置の数値化が望まれる。

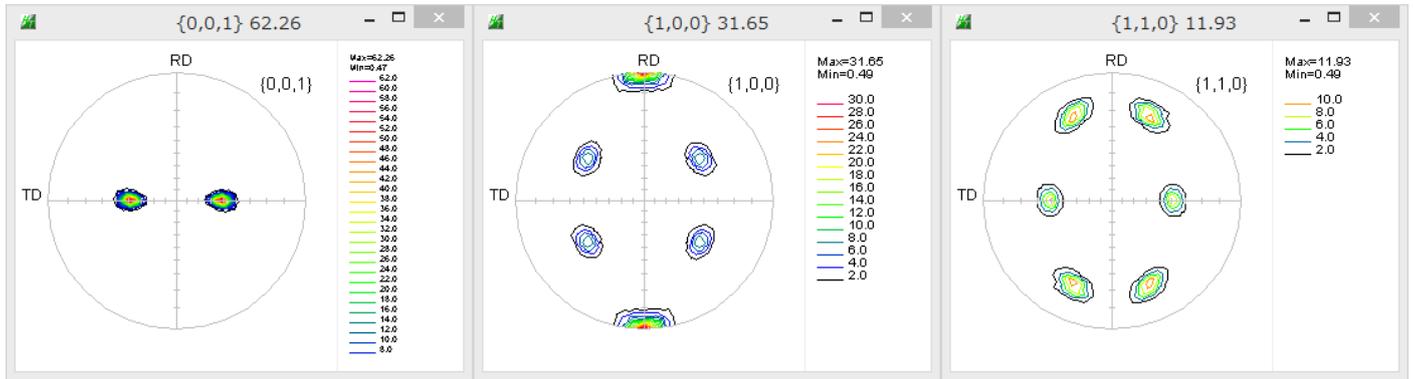
2018年02月06日

*HelperTex Office*

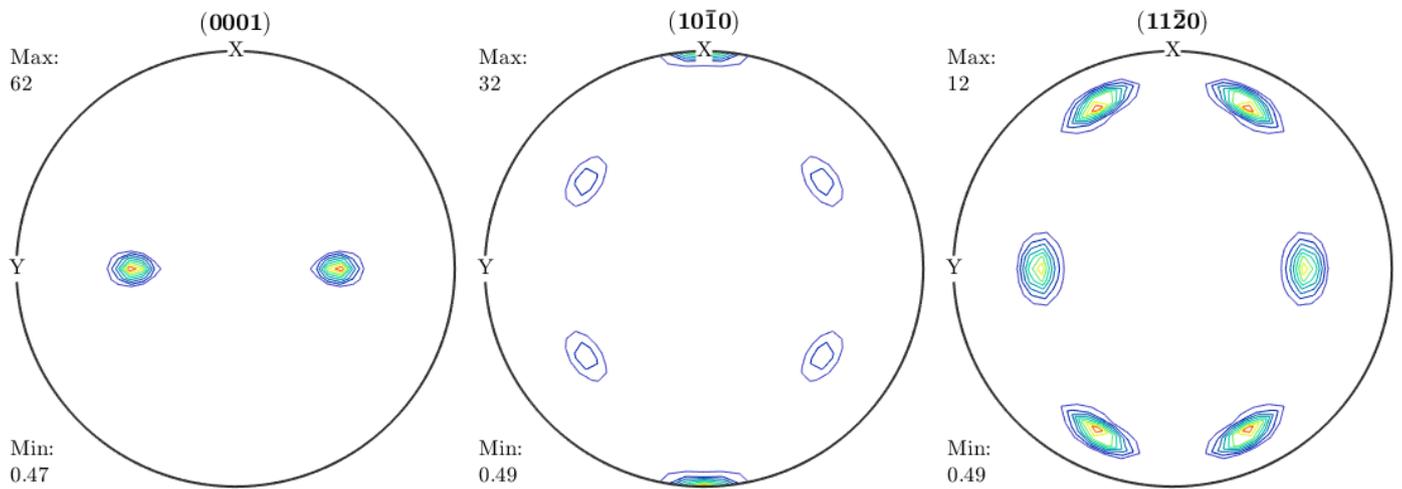
概要

立方晶に続き、Hexagonalの動作を確認する。

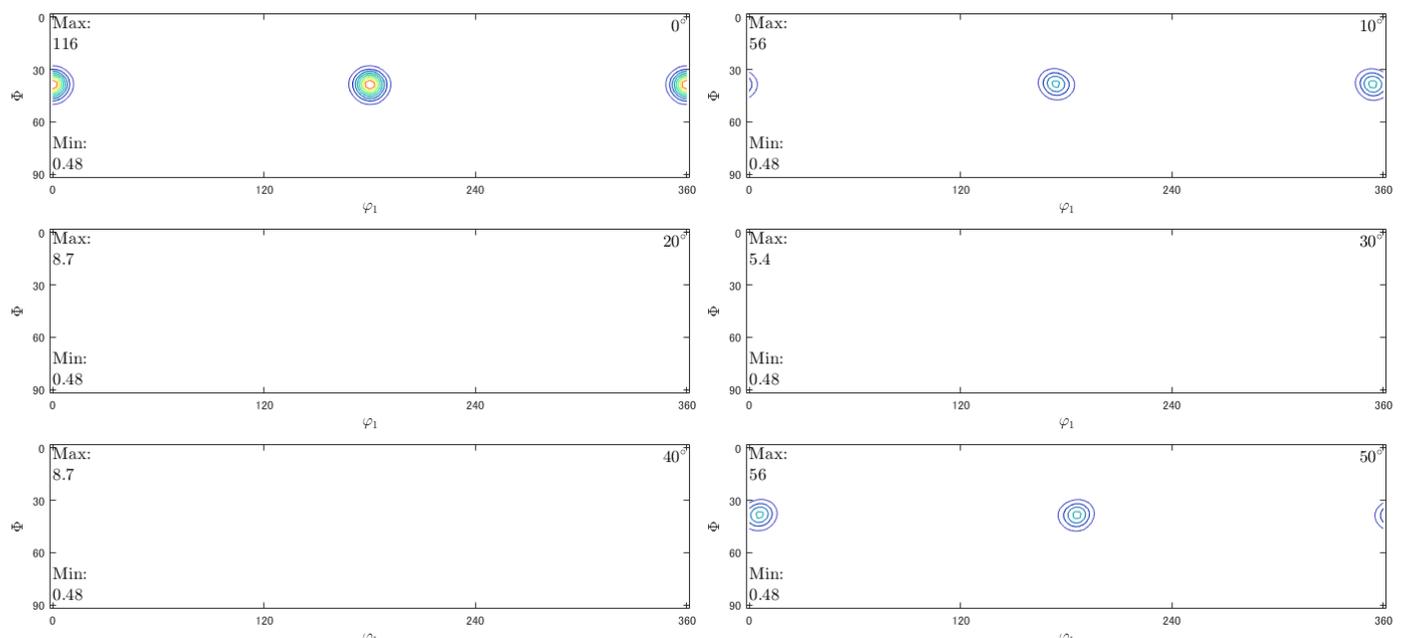
入力データ



MT EXで読み込み表示

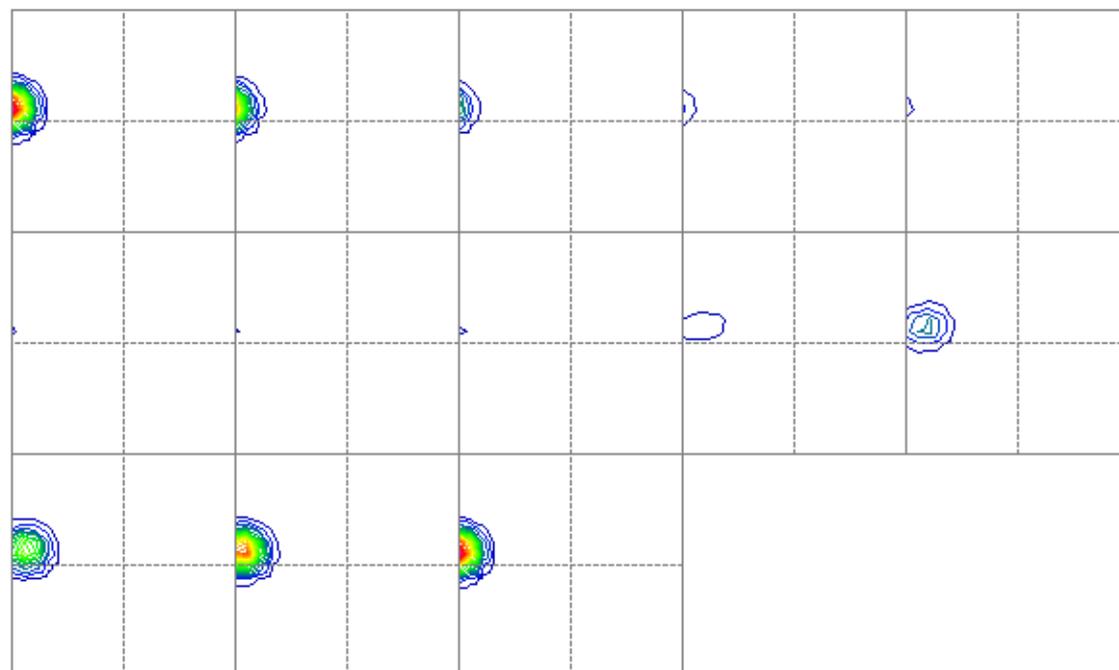


ODF 図

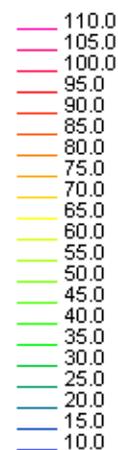


ODF 図を Export し、Triclinic  $\rightarrow$  Orthorhombic で表示

filename: C:\MTEX\TM114-1-10\hexaodf.bt



Max=114.25  
Min=0.48



AType X=[2-1-10]

Bunge  $\psi$ 2 section

0 90  $\psi$ 1

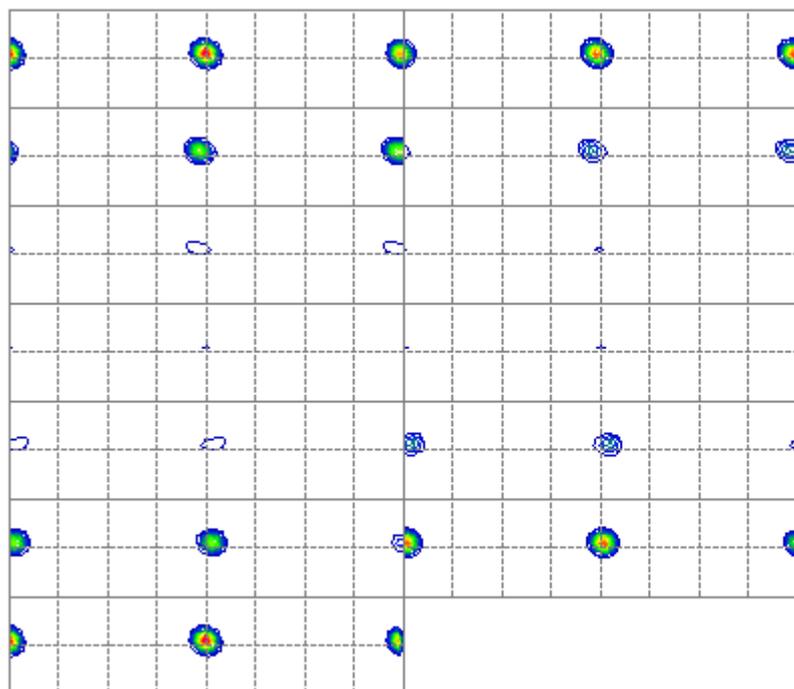
$\psi$ 2=0  $\rightarrow$  60

step=5.0

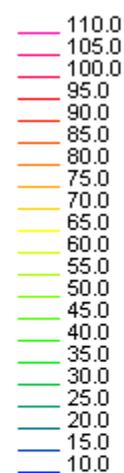
90  $\phi$

Triclinic のまま表示

filename: C:\MTEX\TM114-1-10\hexaodf.bt



Max=114.25  
Min=0.48



AType X=[2-1-10]

Bunge  $\psi$ 2 section

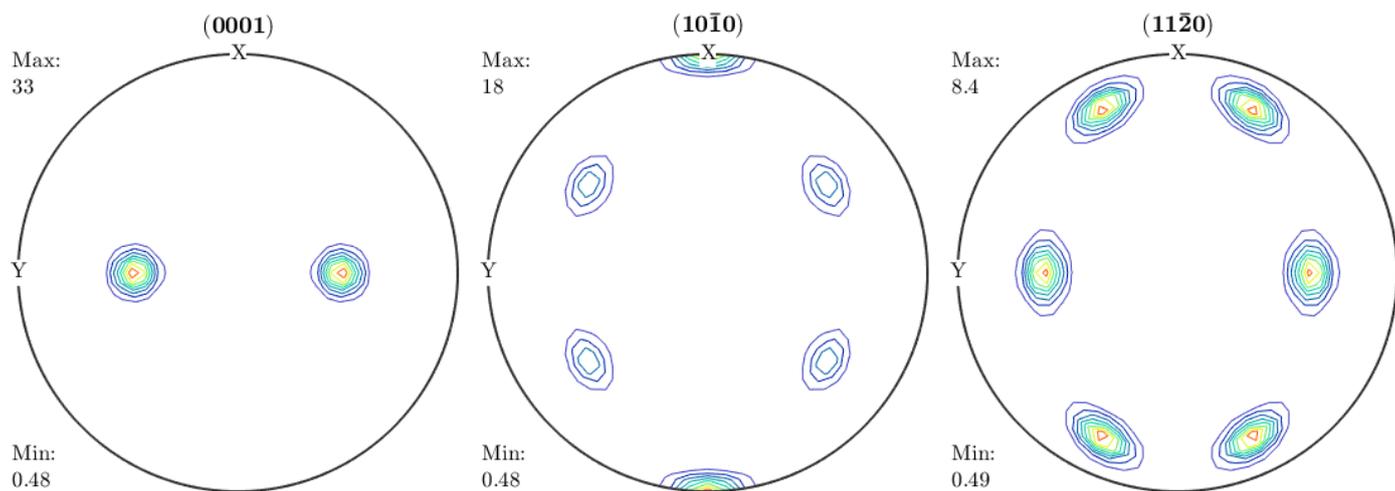
0 360  $\psi$ 1

$\psi$ 2=0  $\rightarrow$  60

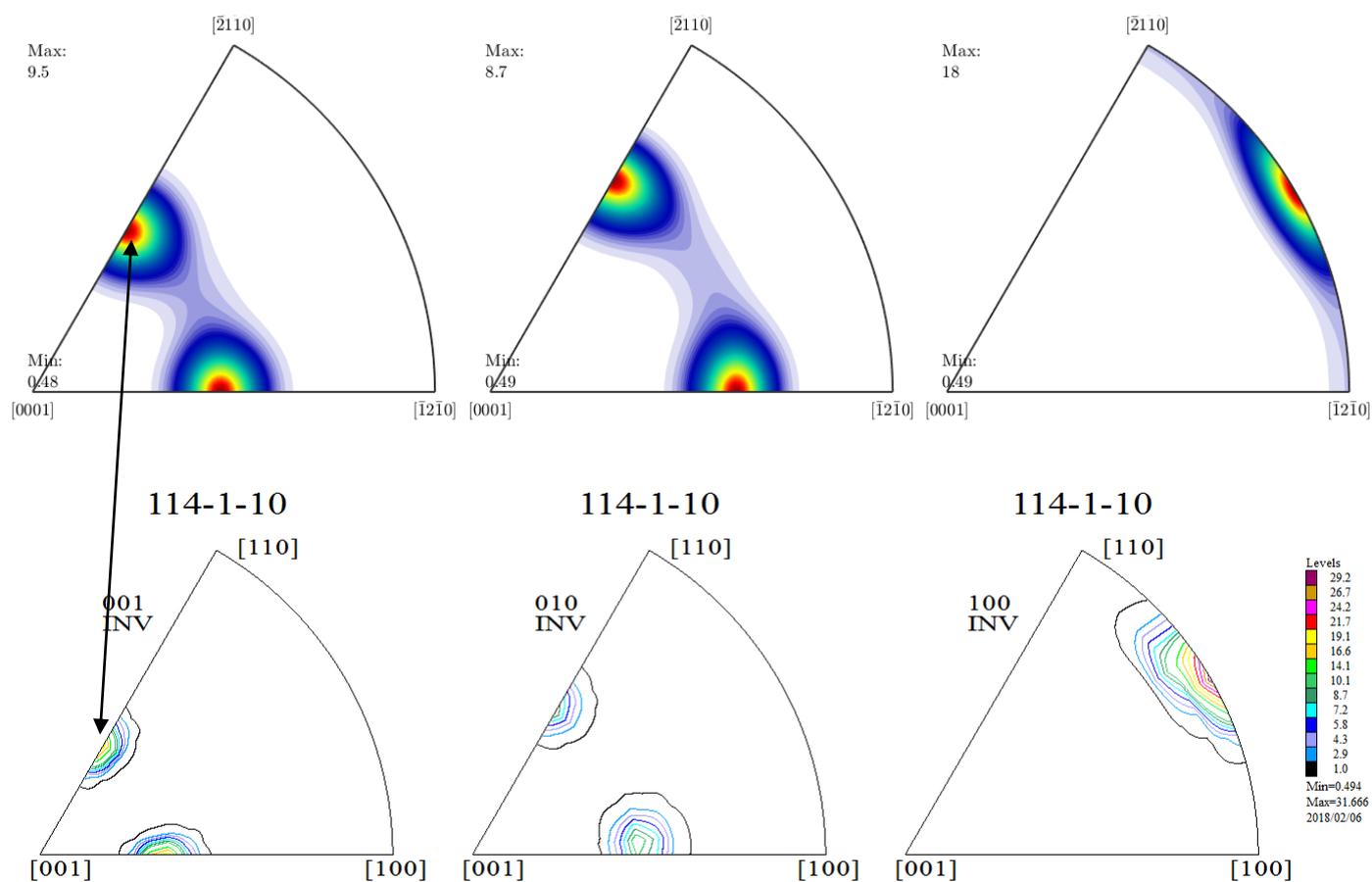
step=5.0

90  $\phi$

再計算極点図



逆極点図の L a b o T e x と比較



極点図や逆極点図の  $\alpha$  方向の間隔が異なる。

通常は、等面積（ポーラネット）で表示するが、MTEXは異なる。

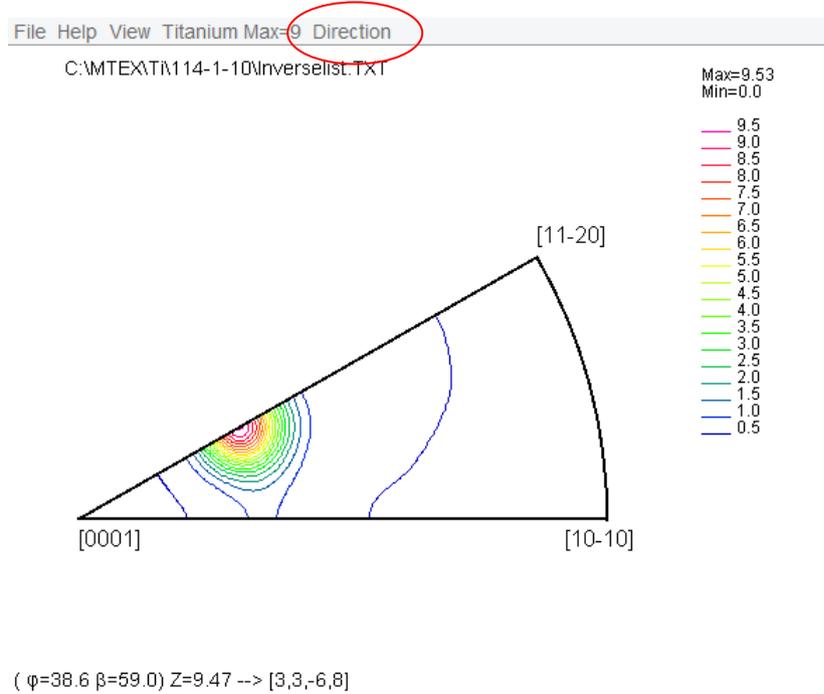
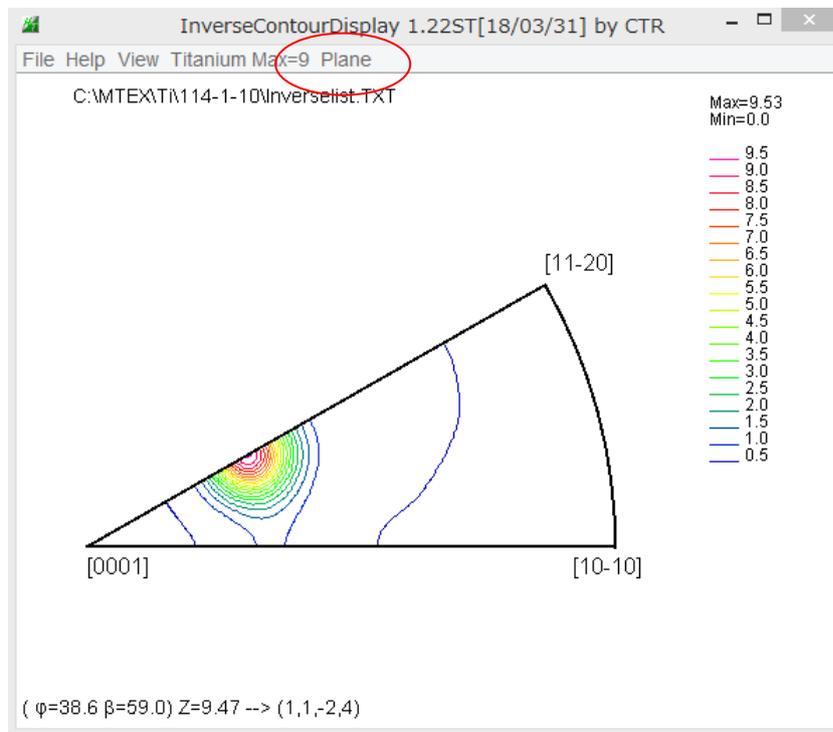
逆極点図のExport (ND方向を比較する) し方位計算を行う

Exportされる値は5551データ

5548	0.4887
5549	0.4884
5550	0.4881
5551	0.4880

61 x 91 = 5551と考えられる。

Export し、Plane で計算すると (11-24) が得られる。



Direction では、[33-68]が得られる。